

城かべ 中塗り

基本を守ることは、良い壁を作る上でも大事なことです。
その一つが上塗り前の砂しつくいです。
壁を長持ちさせ、仕上がりが断然違います。

- 太めのマニラスサと南京スサをふんだんに使用、骨材も配合済みで、高強度の砂しつくいができます。
- 乾燥すれば白くなり、そのままの仕上げも可能。
- 油の添加で屋根工事にもご使用戴けます。



商品概要

- | | |
|------|-------------------------------|
| ①品名 | 城かべ中塗り |
| ②性状 | 白色粉末 骨材入り |
| ③主原料 | 消石灰、細骨材、粉末糊料、植物繊維 |
| ④荷姿 | 25kgクラフト防湿袋 |
| ⑤用途 | 壁中塗り、屋根 |
| ⑥用法 | 清水8Qにて混練 コテ塗り |
| ⑦塗面積 | 6.6㎡(2坪)/t2.5mm~3.3㎡(1坪)/t5mm |



田川産業株式会社

城かべ



城かべ 中塗用

施工要領

1. 混練

- ① きれいな練り船に城かべ中塗用と清水8ℓをいれ、練り鉄で充分練りあわせませす。
(ハンドミキサーご使用の場合、容器に水を先にいれておくと練りやすくなります。)
- ② 油、ボンド等は水で練り上げた後に混入し、改めて充分練ります。
- ③ 混練後1～2日置いておくと良く馴染み、塗りやすくなります。

2. 下地処理

- ① 左官下地は完全に養生し、乾燥させ、ボード類は目地処理をしておきます。
- ② 表面をきれいに清掃して、シーラー引き、または水打ちをして下さい。

3. 塗り付け

- ① はじめに下地に食い込むように全面に薄くしごき塗りして、2回目に厚みを揃えます。
- ② 半焼きの金ゴテで充分押さえた後、刷毛で軽く目荒しておくと上塗りが掛けやすくなります。
- ③ 表面の水引にムラが生じた場合新聞紙等を当て、調節します。
- ④ 半乾きのうちに上塗りを追いかけて塗ります。

※ 屋根工事

- 施工の手引きを参照してください。

試験項目(試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904,6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウエザーメーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃～80℃ 10サイクル)
合格	8.5	2.0kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 外壁や水がかかる箇所への施工には必ず「城かべ油」を混入してください。
- ② 混練後材料を1週間以上置く場合は糊剤(粉末銀杏草)を添加してください。
- ③ 土中塗や付着しにくい下地には必ずシーラー引きを施してください。
- ④ 木ゴテずりは目が荒くなりすぎ、強度も落ちますので、必ず金ゴテで押え、目荒して下さい。
- ⑤ 中塗に油を添加した場合、乾燥してしまうと上塗りが付きにくくなりますので、必ず追いかけて仕上げて下さい。

製造



田川産業株式会社

〒826 福岡県田川市大字弓削田1924番地

TEL 0947-44-2240

FAX 0947-44-8484